

平成 31 年 1 月 24 日

広島市立大学COC+平成30年度事業の実施状況

1 平成 30 年度事業の概要

区分	項目	内容
教育カリキュラムの整備・推進等	①地域貢献特定プログラム ②単位互換 ③寄付講座 ④全学COC+研修会 ⑤COC+フォーラム ⑥インターンシップ	①当初 14 科目で開講したプログラムを、H28 年度に 23 科目に拡充した。引き続き「地域課題演習」「地域再生論入門」「観光情報学」などを実施し、新たに「地域実践演習」開講した。 ②互換参加校が 6 校から 7 校に増加し、地域志向科目 18 科目の単位互換を実施した。 ③H29 年度に続いて、芸術学部において「マツダ共創ゼミ」を開講した。 ④全教職員への研修を 1 回実施した。3 月にさらに 1 回実施する予定。 ⑤長崎大学と共催し 11 月 16 日に開催した。 ⑥地域の企業・自治体へのインターンシップを促進し、H31 年度に向けたキャリア教育の再検討を行った。
観光関連データベースの構築と活用	①データの活用 ②データに関連した調査	①登録コンテンツは総数約 60 万件となり、「地域課題演習」や「観光情報学」において活用した。 ②地域課題に応じた調査を 2 地域で実施した。
教育研究事業の推進	①アートプロジェクト ②基町プロジェクト ③宮島の教育研究拠点施設 ④特色研究COC+関連等の実施 ⑤参加校による協働研究事業 ⑥大学連携による学生の観光研究・活動発表会 ⑦サテライト講座	①「広島ニュートラベル」をテーマに、5 地域から 6 地域に拡充して 10 のプロジェクトを実施している。 ②広島市中区基町の活動拠点「M98」、「M98 <eat>」、「M98 <make>」、「M98 <join>」を運営し、コミュニティデザイン活動を進めた。 ③「サテライトハウス宮島」において、作品の展示、講座の開催等を行った。 ④特色研究、社会連携プロジェクトのCOC+枠による研究等を 10 件実施している。 ⑤参加各校が地域での教育研究事業を実施した。 ⑥7 大学の学生による発表会（第 2 回）を宮島において 12 月 8 日・9 日に開催した。 ⑦高校生の地域内進学を促進するサテライト講座を柳井市において実施した。
事業運営	①推進組織の運営等 ②広報 ③外部評価委員会	①COC+運営部会（学内）などの推進組織を運営し、事業の推進、調整を行った。 ②ニュースレター第 9 号を 12 月に発行し、第 10 号を 3 月に発行する。 専用ホームページにより情報を発信した ③外部評価委員会を 7 月 18 日に開催し、平成 29 年度事業について「計画を上回った実績を挙げている」との評価を受けた。

2 教育カリキュラムの整備・推進等

(1) 地域貢献特定プログラム

本学COC+の教育カリキュラムのベースとなる地域貢献特定プログラムは、地域志向型科目として「広島を知る」「広島を感じる」「広島を問う」「広島に挑戦する」という4つのステップを、全学共通系科目や専門教育科目において学習・経験できるよう構成している。

平成29年度に科目数を9科目増やして23科目に拡充し、新規開講科目である「地域課題演習」「地域再生論入門」「地域再生論」「観光情報学」を実施し、平成30年度から新たに「地域実践演習」を開講し、延べ1369人の学生が広島を「知る」「感じる」「問う」の3つのステップを学習した。

【地域貢献特定プログラム科目編成】

科目区分		ステップ	科目名	年次・学期	履修人数
全学共通系科目	総合科目	広島を 知る	[新]地域再生論入門	1・2年・後期	75
			創作と人間	1・2年・前期	140
			NPO論	1・2年・前期	63
	広島科目		[新]広島の観光学	1・2年・前期	54
			ひろしま論	1・2年・前期	355
			広島の産業と技術	1・2年・後期	251
	感じる	[新]地域課題演習	2年・通年	54	
国際学部 専門教育科目	公共政策・NPOプログラム	問う	[新]地域再生論	2・3年・後期	21
			㊹非営利組織論Ⅰ	2年前期	20
			㊹非営利組織論Ⅱ	2年後期	9
			㊹交通論	2年前期	18
			㊹スポーツ文化経営論	2年後期	72
			㊹フィールドワーク論	2年後期	2
			㊹経営史	2年前期	17
	専門演習		[新]専門演習Ⅰ(地域実践演習)	3年・30年度前期～	5
			[新]専門演習Ⅱ(地域実践演習)	3年・30年度後期～	5
情報科学部 専門教育科目	専門基礎科目・ 専門科目	[新]観光情報学	2・3年・前期	135	
		㊹インターンシップ	3年・通年	7	
		[新]地域実践演習	3年・30年度～	10	
芸術学部 専門教育科目	専門基礎科目	アートマネジメント概論	2年・後期	37	
		㊹造形応用研究Ⅰ	2・3・4年	未了	
		㊹造形応用研究Ⅱ	3・4年	未了	
		[新]地域実践演習	3年・30年度～	19	
3学部	専門基礎科目・ 専門科目	広島に 挑戦す る	卒業論文(国際学部) 卒業研究(情報科学部) 卒業制作(芸術学部)	4年・31年度	—
					延べ1369

■ : 30年度に新規開講した科目 ㊹ : 29年度に拡充した講座 [新] : 28年度入学生対象の新規科目

【平成 30 年度「地域課題演習」の実施状況】

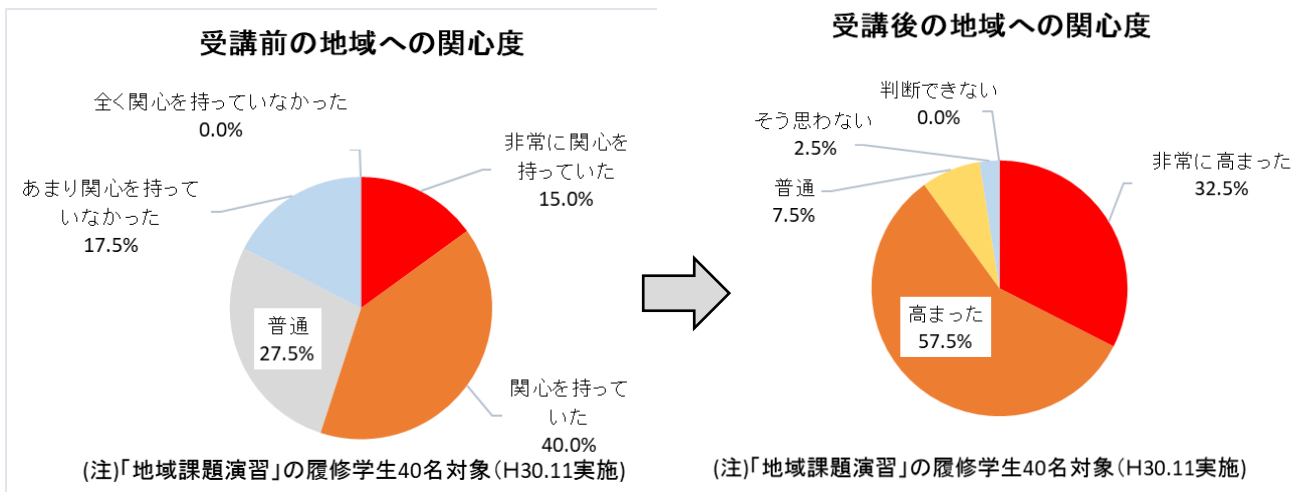
COC+の参加市町の多彩な地域文化や環境等にふれ、この地域の資源や人々の取組などを学習し、現地において知見や考察を深め、地域の魅力や課題について理解することを目指す。地域志向のマインドを醸成するための演習として位置づけている。

平成 29 年度に続き 10 の地域テーマを設定（三原市や世羅町、周防大島町等を新たに設定）し、学生の希望を調整したで 7 テーマを実施した。履修者数は 54 名。



「地域課題演習」の概要			
演習担当教員 主担当 10 名、副担当 10 名			
【演習テーマ】 以下の①から⑩までのテーマを設定し、★印の7テーマを実施した。			
テーマ名(内容)	地域名	主担当教員	履修学生
① ★瀬戸内海の水産と魚の楽しみ方を知る	広島市、呉市	国際学部 山口光明教授	4名
② ★竹原市をPRする観光映像を作る	竹原市	情報科学研究科 島 和之准教授	6名
③ ★しまなみ海道を自転車で走って行動情報を収集する	尾道市	情報科学研究科 竹澤寿幸教授	17名
④ 中島町・基町ツアー	広島市	芸術学部 中村 圭講師	—
⑤ ★広島市内の河川環境を利用した、リバーツーリングの楽しみ方を知る	広島市	芸術学部 藤江竜太郎講師	8名
⑥ ★瀬戸内のハワイ周防大島の島暮らしを体験し、島移住の課題と魅力を知る	周防大島町	社会連携センター 三上賢治特任助教	6名
⑦ ★世羅高原の6次産業を訪ねる	世羅町	社会連携センター 國本善平特任教授	8名
⑧ ★離島の「非日常性」を体感する	三原市 (佐木島)	社会連携センター 佐藤俊雄特任教授	5名
⑨ 広島会社へ行こう 2018	広島市ほか	社会連携センター 吉岡研一特任准教授	—
⑩ 岩国錦帯橋エリアを探訪し観光地としての課題を見つける	岩国市	社会連携センター 植松敏美特任助教	—
			54名

【「地域課題演習」履修生アンケート】



受講前の地域への関心度は、「非常に関心を持っていた」と「関心を持っていた」を合わせて55%であったが、受講後「非常に高まった」と「高まった」を合わせて90%と、大きく上昇した。

地域への課題認識を深める演習として一定の教育効果を上げている。

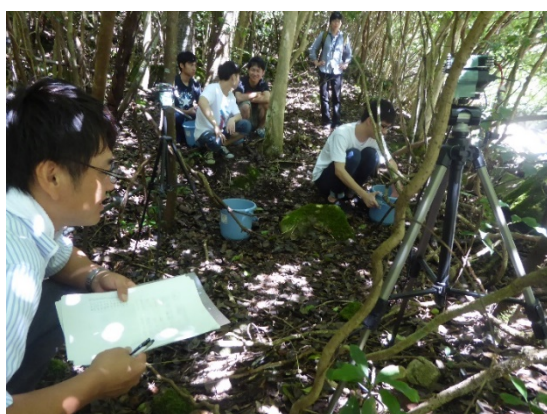


【平成 30 年度開講「地域実践演習」の内容】

「地域実践演習」は、「広島を問う」科目として位置づけ、平成 30 年度から、専門教育科目（3 年生対象）として各学部の専門性や知見を生かして地域の魅力を引き出し高めていく取組や、地域の課題解決を実践的に試行する演習として開設した。

授業設計の方針として「広島市とその周辺地域を対象に、地域再生や観光振興など地域の課題解決に向け、あるいは地域性をテーマとして、PBL（課題解決型学習）等の手法により、実践的な演習を行う」こととし、担当教員の決定及びシラバスの作成を行った。履修学生は 3 学部合計で 34 名。

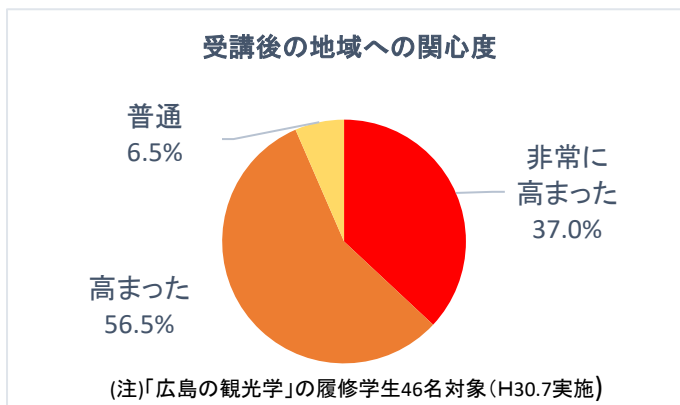
学 部	学 科	演習の概要	担当教員
国際学部	国際学科	山口県上関町祝島をフィールドとし、この魅力あふれる小さな島を探求する。祝島は他の離島同様、過疎と高齢化が深刻で、そのうえ原発建設という国策が未来を拘束してきた。そのなかで、島の人々はどのように過去を見つめ、未来を創り出そうとしているのか、島を見て、人々の話を聞いて考える。（上関町）	湯浅正恵教授 （社会学）
情報科学部	情報工学科	広島市における土砂災害に着目し、住民へ早期避難を促すための災害関連情報を効率的に配信させることに取り組む。実際に地域の避難場所周辺において、ネットワークコースの研究室にて開発している草の根災害情報伝搬システムにおける端末を利用して、情報伝搬特性を評価する実験を行い、得られたデータを解析する。（広島市）	西正博教授 （通信工学） 河野英太郎准教授 （ネットワークソフトウェア）
	知能工学科	実践的な課題として「ペッパーに広島の話させよう！カーブの話でもOK」を取り上げる。情報科学の専門性としては音声対話技術とロボットプログラミングを扱う。地域の課題として広島地域の観光やカーブを扱う。（広島地域）	竹澤寿幸教授 （音声言語情報処理） 黒澤義明助教 （発話意図理解）
芸術学部	美術学科 デザイン工 芸学科	各担当教員の指定する演習対象地域において、その地域の特性を理解した上で、それぞれの専門分野でこれまで培ってきた専門的知識や技術・方法等を活用し、地域の魅力の創造や課題解決に取り組む。（北広島町、廿日市市、広島市）	伊東敏光教授 （彫刻） 荒木享子准教授 （日本画） 中村圭講師 （視覚造形）



【平成 30 年度「広島観光学」の実施状況】

瀬戸内海、中国山地、それらに近接する都市群という、多様な資源に恵まれたこの地域の魅力と可能性を、観光という切り口から、学生達に伝える役割をもつ科目である。

人口減少下においては、観光は地域の経済的・文化的な活力源としての役割を持つ。このため、事業協働地域の市町へのヒヤリングを基にしながら、来訪者を誘う地域資源の魅力、地域資源に付加価値を加える観光施策、観光の地域振興効果等について学修する構成としている。COC+単位互換科目として実施。履修学生は 54 名。



「広島観光学」の構成

1. イントロダクション
2. 世界遺産・厳島神社と宮島
3. 港町の形成と町並み観光
4. 「海辺空間」の魅力
5. 海の体験型修学旅行
6. アートによる観光振興～瀬戸内国際芸術祭～
7. 戦争遺産と平和を考える
8. 瀬戸内海を世界に売り出す
9. 森の魅力と森林セラピー
10. 森の体験観光
11. 民俗芸能の観光化
12. 農村環境の観光化
13. ピースツーリズムとMICE
14. 水辺を活かした都市観光
15. 伝統文化と観光

【平成 30 年度「地域再生論入門」の実施状況】

広島広域都市圏の都市部と中山間地域のそれぞれのフィールドにおいて、強みとなる地域資源を活かした産業振興や地域づくりについて、外部講師を交えて講義し、地域再生の最新の動向と方法論についての理解を深める。特に、人口減少社会等の厳しい外部環境下においても、官・民の工夫により生き生きとした地域再生がなされていること。また、持続性のある地域づくりのためには、第一次産業等の地域資源をベースにした産業振興、コンパクト+ネットワーク型の地域社会づくり、都市・中山間地域間の交流・連携、人材の育成が大切であることを習得する。COC+単位互換科目として実施。履修学生は 75 名。

「地域再生論入門」の構成

1. イントロダクション
2. 広島市の都心再生
3. 日本初のボールパークによる広島の活性化
4. 公共空間を活用した都心の賑わい創出
5. 起業の拠点構築と新商品開発
6. ローカルな産業を生み出す、持続する
6. 空家再生による都市の再生
7. リノベーションまちづくり
8. 中山間地域における交通と生活拠点機能の確保
9. 移住による中山間地域の再生
10. IT産業の誘致等による中山間地域の再生
11. 6次産業化や法人経営等による農業の再生
12. 都市との連携による農業の再生と伝統産業
13. 高付加価値化と再生可能エネルギーによる林業の再生
14. 都市と中山間地域の連携による持続的な圏域形成
15. 人材育成と連携による地域再生

【平成 30 年度「観光情報学」の実施状況】

情報の観点から観光を捉える新しい学問分野である。開講2年目となり、履修学生が前年度より約4倍に増加した。観光情報学の基礎と、演習を通して情報技術の活用方法を学ぶ。演習では、COC+観光関連データベースの構築、テキスト情報を利用した観光地イメージの分析を行い、成果を発表した。COC+単位互換科目として実施。履修学生は135名。



「観光情報学」の構成

1. 観光情報学とは
2. 情報化時代の観光行動
3. 観光情報に関するサービスや研究
4. 観光関連データベース構築に関する取組
5. データベースの基礎:SQL
6. 観光関連データベース
7. [グループ演習] 広島関連の観光情報を収集
8. [グループ演習] 広島関連の観光情報をデータベースに登録
9. テキスト情報を利用した観光地イメージの分析
10. テキストマイニングの基礎 I
11. テキストマイニングの基礎 II
12. [グループ演習] 観光地イメージを抽出
13. [グループ演習] 観光地イメージについて分析
14. 発表資料の作成
15. グループ毎の発表

(2) 単位互換制度の実施

参加校における連携と交流を進めることでCOC+教育プログラムのカリキュラムの充実を図ることを目的として、参加校間での単位互換制度を平成29年度より開始している。

各校が提供する地域志向型科目を、参加校の学生が単位互換生として履修し、科目提供大学における成績をもとに、学生の所属大学において単位認定する。学生の受講の利便性を考慮し、遠隔講義システムの使用が可能な科目や集中講義形式での実施が可能な科目を中心とした。

平成30年度は、提供大学が1校増えて7校に、科目も1科目増えて18科目になり、出願者も7名から10名に増加した。

大学名	提供科目名称	出願人数
広島大学	命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習	
尾道市立大学	地域の伝統文化(囲碁)	
	瀬戸内文化論	
広島経済大学	広島を学ぶ	1
	広島の歴史と文化	
広島修道大学	地域イノベーション論	
安田女子大学	地域経済学	
	観光政策論	2
広島商船高等専門学校	社会基盤論	
広島市立大学	地域再生論入門	
	創作と人間	2
	NPO論	
	ひろしま論	
	広島の観光学	1
	広島の産業と技術	1
	観光情報学	3
アートマネジメント概論		
7校	18科目	10人

出願した学生の所属は、広島大学、尾道市立大学、広島経済大学、広島修道大学、安田女子大学、広島工業大学、広島市立大学の7大学。

(3) 寄付講座の実施

マツダ(株)と広島市立大学芸術学部が協働して、広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となることを目指し、平成 29 年度開講の寄付講座「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を実施した。芸術学部の専攻を超えて学生 11 名が実践的な学びや制作に取り組んだ。(平成 30 年度のテーマは、「エレガントなフォルム」)

1 月 31 日に、本学芸術資料館において、学生が作品(成果)についてプレゼンテーション、作品審査を行い、アドバイザリーボードである前田客員教授(マツダ(株)常務執行役員)から評価・講評を受ける予定。

【マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ】

開設期間:平成 29 年度～31 年度(延長予定)

対象:芸術学部2年次以上の学部生、芸術学研究科の大学院生等。定員 10 名～15 名 (H30 年度 11 名)

内容:マツダ(株)からの派遣講師と芸術学部教員の指導のもとで演習を行う。

代表教員:広島市立大学芸術学部 吉田幸弘教授

マツダ(株)デザイン本部クリエイティブデザインエキスパート 高橋耕介氏

担当教員:広島市立大学芸術学部 大塚智嗣准教授

同 野田睦美准教授 同 藤江竜太郎講師

アドバイザリーボード※:マツダ(株)常務執行役員 前田育男氏

※作品審査やゼミ活動の助言を行う。


(4) 全学COC+研修会の開催

全学研修会をFD・SD研修として開催し、学内でのCOC+推進への理解促進や気運の醸成を図った。

第 1 回目は、公立大学としての今後の地域志向教育のあり方について、高知県立大学の先駆的な取り組みに学ぶ内容とし、12 月 11 日に開催した。

第 2 回目は、「地域貢献特定プログラムの成果と課題」をテーマとして、3 月に開催する予定。

【平成 30 年度第 1 回開催内容】

	平成 30 年 12 月 11 日(火)	
会場	講堂(小ホール)	
対象	全教職員	
内容	<p>【テーマ】 「高知県立大学における地域社会志向教育の取組」 ～地域教育研究センターの役割と域学共生教育の成果～ (大学と地域が協働し、地域社会の課題に取り組む特色ある教育プログラム「域学共生」、「立志社中」の理念や実践に学ぶ。)</p> <p>【講師】 高知県立大学 地域教育研究センター長 清原 泰治教授 地域連携部地域連携課 宗石 道代課長</p>	
参加者	35名 (Web 視聴者を含む)	

(5) 広島市立大学・長崎大学 COC+フォーラムの開催

本学 COC+ の柱である観光と情報をテーマに、広島市立大学と長崎大学の協働によるフォーラムを、平成 30 年 11 月 16 日に広島市総合福祉センターで開催した。両大学とも、観光に関わる人材の育成や情報システムの構築による観光地の活性化等を目指して、地域団体や企業と協働して地域の雇用創出や学卒者の地元定着に取り組んでいる。観光情報学会第 18 回研究発表会（11 月 17 日宮島で開催）のプレイベントとしても位置付け、自治体や観光事業関係者等 67 人の参加者があった。

【広島市立大学・長崎大学 COC+フォーラム】

日 時	平成 30 年 11 月 16 日(金) 15:00~17:15
会 場	広島市総合福祉センター・ホール
テーマ	「ICT による観光情報を活用した観光振興—その事例と展望」
内 容	<p>【事例報告】</p> <p>①長崎大学 COC+観光活性化支援システム:長崎県の事例 (講師 長崎大学ICT基盤センター 准教授 一藤裕氏)</p> <p>②広島市立大学 COC+サイクリストの行動情報を利用した観光振興:しまなみジャパン(地域連携 DMO)の事例 (講師 広島市立大学社会連携センター 特任助教 植松敏美氏)</p> <p>③観光予報プラットフォームを利用した中小事業者の生産性向上の取組等:伊勢で 100 年続く老舗飲食店ゑびやの事例 (講師 公益社団法人日本観光振興協会 総合調査研究所 主任研究員 森岡順子氏)</p> <p>④DMO ネットによる観光地マーケティング:秩父地域おもてなし観光公社(地域連携 DMO)の事例 (講師 観光庁観光戦略課 専門官 菅野正洋氏、同庁観光地域振興課 DMO 支援室 渡邊一樹氏)</p> <p>【総括コメント】 観光情報学会会長 大藪多可志氏</p>
参加者	67 名



本学特許「(特)1 観光大学による地域振興支援システム」

広島市立大学・長崎大学 COC+フォーラム2018

観光情報学会第18回研究発表会(in広島)プレイベント

11月16日(金)
15:00~17:15
広島市総合福祉センター(大会議室12)
広島市南区宮島町3-1 緑のFRODOT 2F,3F,5F

参加無料 定員70名

観光振興
ICTによる
観光情報を活用した
—その事例と展望—
このイベントはDMOの集まりです

観光が国の成長産業として位置づけられる中、地域観光をさらに振興するには、地元の科学的な調査や事業のインベション等により、観光地の魅力づくりや事業経営の改善を進めることが重要となっています。ICTによる観光情報の活用について、①登録すれば自治体・観光事業者が利用できる、②基本的に無料で利用できる、③具体的な活用事例がある、この3条件を満たす4つの事例をご紹介します、ご参加の目標の新たな取組の契機となることを期待してフォーラムを開催します。

お申し込みは裏面へ→

主催：広島市立大学 COC+ 事務局 長崎大学地方創生推進本部
主幹：広島市立大学 COC+ 事務局 長崎大学地方創生推進本部
協賛：広島市立大学 COC+ 事務局 長崎大学地方創生推進本部
協賛：観光情報学会 広島市立大学 COC+ 事務局 長崎大学地方創生推進本部
協賛：観光情報学会 広島市立大学 COC+ 事務局 長崎大学地方創生推進本部

(6) 企業等へのインターンシップの促進

本学における企業等へのインターンシップの実施状況は以下のとおり。

平成 30 年度は受入れ企業等の数が減少するとともに、参加する学生の数も同様に減少した。インターンシップ参加学生数の減少については、「超売り手市場」とも言われる昨今の雇用情勢が背景にあると考えられるが、インターンシップの学生のキャリア形成における重要性は増しており、入学時からの就職・キャリア形成に向けた支援を充実する中で、インターンシップの活用を促していく必要がある。平成 30 年度において、キャリア教育関連科目等の見直しを行い、平成 31 年度からキャリアデベロップメントプログラムとして再構築することとした（現在、平成 31 年度からの実施に向けて学内調整中）。

【インターンシップ受入れ企業数】 ※（ ）はCOC+協働機関

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
受入れ企業・団体の数	84社・団体 (58)	103社・団体 (70)	304社・団体 (163)	238社・団体 (123)

平成 30 年度は 12 月末現在

【インターンシップの参加学生数】 ※（ ）はCOC+協働機関におけるインターンシップ

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
企業等インターンシップ	42名(39)	63名(47)	77名(55)	51名(37)
広島市有給長期 インターンシップ	5名(5)	3名(3)	3名(3)	1名(1)
広島県インターンシップ 促進協議会	2名(0)	1名(0)	0名(0)	0名(0)
その他のインターンシップ	6名(0)	4名(0)	4名(0)	1名(0)
合計	55名(44)	71名(50)	84名(58)	53名(38)

平成 30 年度は 12 月末現在

【キャリア教育関連科目等の主な見直し】

平成 30 年度まで	平成 31 年度から(予定)
キャリアデザイン(1年次・2年次) ライフプランにおける社会・結婚・仕事等について知り、自分らしく生きる道を見つける。進路や職業選択に向け、大学で何を学び、大学生生活の過ごし方について支援する。	キャリアデザインⅠ・Ⅱ (1年次・2年次) 科目の内容について、低学年におけるキャリア形成を強化したものに変更する。 2単位×1期の科目から1単位×2期の科目に変更し、学生の状況に応じて柔軟な履修ができるようにする。
キャリアサポートベーシック(3年次) 働くことを見据えた人生設計を支援する。卒業後の進路を適切に選択するための手法を学び、社会人としての礼儀作法、コミュニケーション能力などを身につける。	キャリアサポートベーシックⅠ・Ⅱ (2年次・3年次) 従来の内容に加え、インターンシップへの参加や就職活動に向けた支援を充実させる。 通年1単位の科目から前期・後期各1単位の科目に変更し、インターンシップへの参加や就職活動の対応が柔軟に行えるようにする。
—	キャリアデザインシートの導入 学生ハンドブックに学生が自らのキャリア形成に向けて1年ごとに目標設定・振り返りが記入できるようなワークシートを導入し、学生の担当教員と意見交換する場を設ける。

【地元企業経営者パネル討論会・『働く魅力を知る』企業訪問半日コース】

平成 30 年度も地元企業への学生の理解を深める事業として、本学において「地元企業経営者パネル討論会」を開催した（参加企業 3 社、参加学生・教員約 70 名）。

また、協働機関である(一社)中国経済連合会と協働して、学生が地域企業の経営者・社員との懇談を通じて働く意義を考える事業として、『働く魅力を知る』企業訪問半日コース（参加企業 12 社）を実施した。また、新たに大学教職員の地域企業に対する理解の促進を図るため、教職員向け企業訪問半日コースも開設した。今後ともこうした事業を積極的に推進する。



3 観光関連データベースの構築と活用

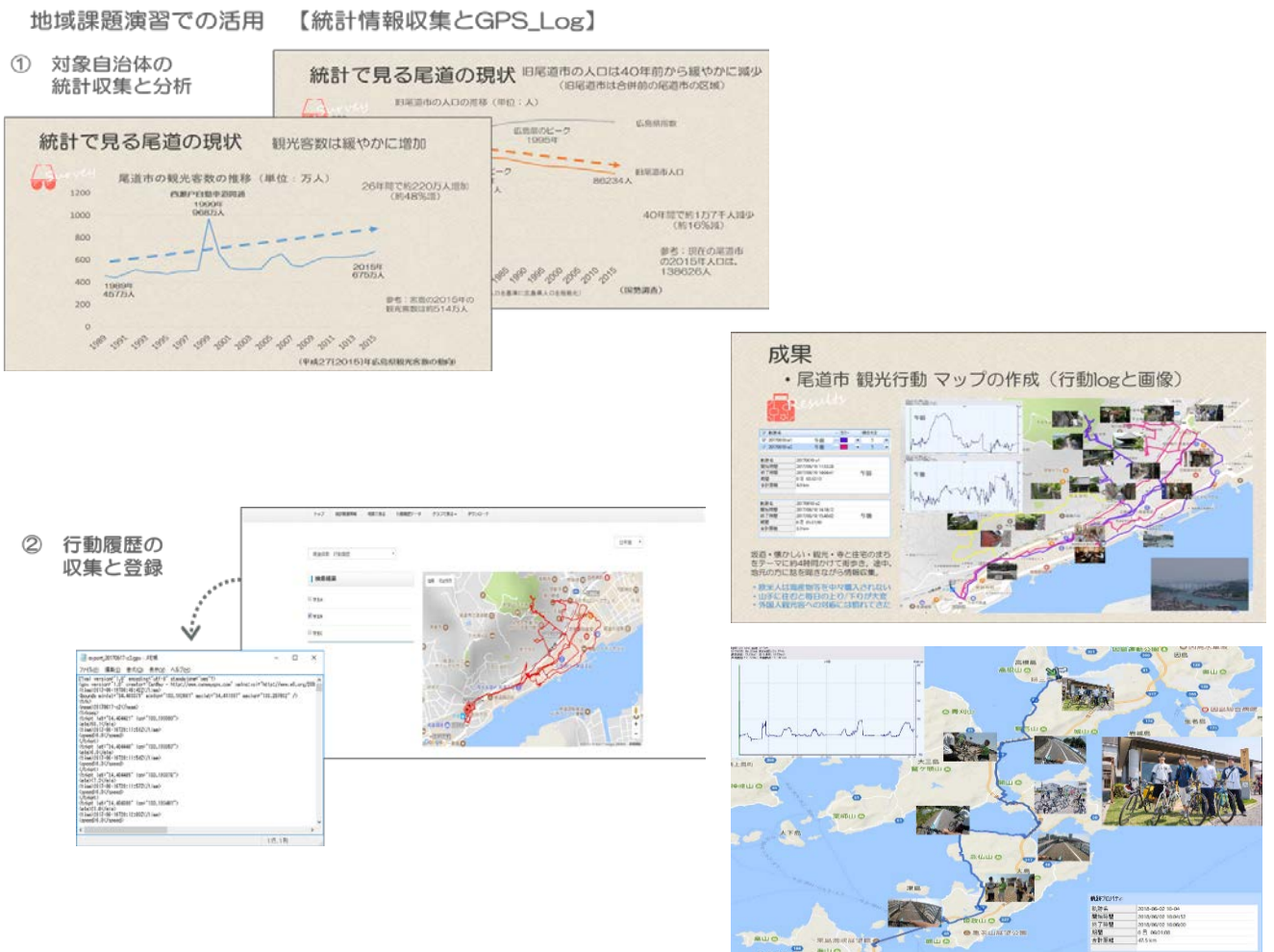
(1) データの活用

事業協働地域内における観光施設や観光資源、観光振興の事例、SNS データ等を集積した「観光関連データベース」の構築を進め、平成 30 年 3 月末現在の登録数は約 60 万件となっている。

平成 30 年度は、セキュリティ等を含めた利用マニュアルを作成し、事業協同機関の参加校と自治体への閲覧を開始した。

構築したデータベースは、平成 29 年度から学内の教育研究の素材として「観光情報学」や「地域課題演習」等への素材活用を行い、平成 30 年度以降、大学、自治体、企業等での活用についても想定している。また、一部の研究科では大学院生による研究課題でも使用しており、現在、収集の中心となっている行動情報データについてもプログラミング演習の一部で活用予定である。

【観光関連データベースの学内活用事例】



(2) データに関連した調査等

構築したデータベースに関連して、地域課題に対する調査を2地域で実施した。その手始めとして、(一社)しまなみジャパンとの協働による調査研究となる「しまなみ観光サイクリストの行動情報収集プロジェクト」を開始した。平成29年度は予備調査を行い、平成30年度に本調査を行った。ここで得られたデータを登録・公表するとともに、協働実施の経験や成果を他の機関との連携へのリーディングケースとしたい。また、岩国市における「観光情報ツールを利用した観光振興プロジェクト」についても調査成果を取りまとめ、今後の他地域での応用にも取り組んでいく予定である。

【しまなみ観光サイクリストの行動情報収集】



【観光情報ツールを活用した地域観光振興 岩国】



教員と学生にて観光客へ貸出

観光客へ利用方法の説明



観光音声ガイドの利用風景

4 教育研究事業の推進

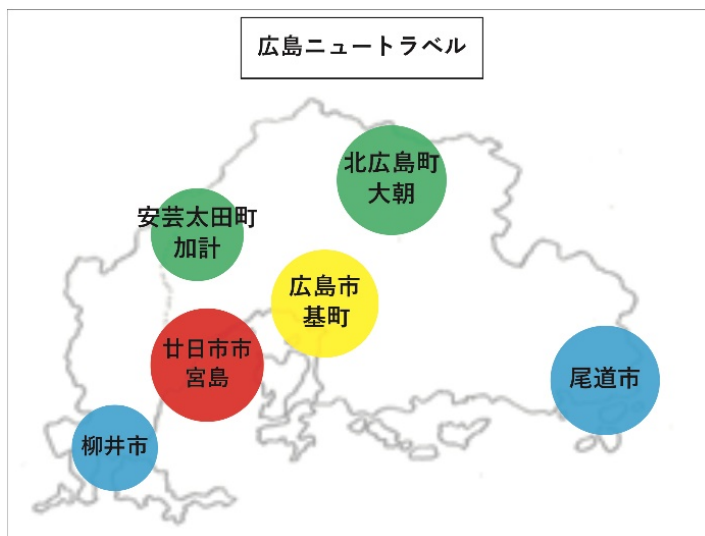
(1) アートプロジェクト

プロジェクトの統一テーマを「広島ニュートラベル」とし、瀬戸内、広島市都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、芸術学部が参加大学や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施した。

実施エリアを平成 29 年度の 5 地域から、柳井市を加えた 6 地域に拡大した。柳井市では伝統行事「柳井金魚ちょうちん祭り」とコラボレーションし、提灯の新たな彩色デザインを提案した。

また、新たなプロジェクトとして、「宮島金工プロジェクト」や「安芸太田染色プロジェクト」などを実施した。

6 地域 10 のプロジェクトに、芸術学部の全 10 専攻の学生・教員 140 名以上が参加した。



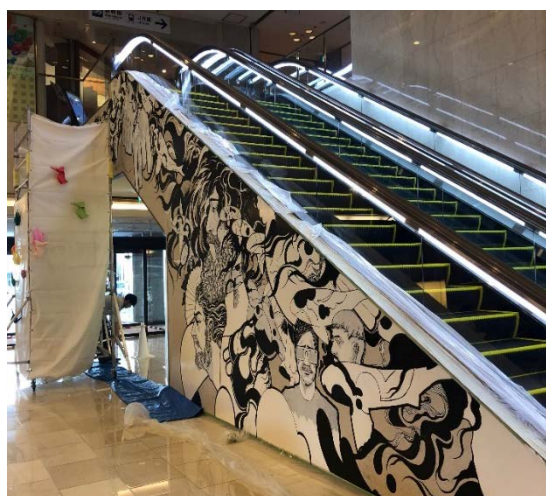
【アートプロジェクトの実施内容】

地域区分	実施地域	プロジェクト名	実施内容（太字は新規）
瀬戸内エリア	廿日市市 宮島	宮島ものづくり産業復興プロジェクト	廿日市市、宮島細工共同組合と協働し、宮島伝統産業会館を活用した宮島轆轤の技術習得、轆轤道具と材料の研究と作品制作。サテライトハウス宮島で展示。（漆造形/参加学生6名）
		宮島金工プロジェクト	宮島の歴史を学び、既存の観光土産品を調査し、金属素材を用いた新しいオリジナルグッズ等の提案を行う。サテライトハウス宮島で展示。（金属造形/参加学生11名）
	尾道市	尾道プロジェクト	尾道市立大学と協働し、尾道市山手地区の空き家を調査。空き家を素材に制作活動を行うアーティストのワークショップに参加し、一連のプロセスを経て作品を制作。尾道光明寺会館で展示。（現代表現/参加学生13名）
		尾道風景画プロジェクト	「尾道の風景」をテーマに、味わいのある街並みや港の風景を調査。日本画制作の基となるスケッチを行い、作品を制作。広島市立大学オープンキャンパス期間中に、日本画専攻アトリエで展示。（日本画専攻/参加学生20名）
柳井市	柳井プロジェクト	山口県柳井市の伝統行事「柳井金魚ちょうちん祭り」に合わせて、金魚ちょうちんを使ったオリジナル作品を制作。7月の金魚ちょうちん点灯式に完成した作品を柳井市内に展示。（デザイン工芸学科1年生、立体造形/参加学生44名）	
広島都市部エリア	広島市	基町プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示・交流スペース「M98join」での学生作品展「join us Motomachi」開催 ・毎月第3土曜日に学生や基町地区住民と交流する「土曜日の先生」開催 ・基町ショッピングセンターのショーウィンドウを活用した作品展「モトマチ・アートウィンドウ」開催 ・学生が主体となって基町住宅地区の課題や魅力を発見し、地域内外との交流の場を作る「もともちカフェ」の実施（広島修道大学との協働） ・基町の歴史や魅力を紹介する「基町、昔の写真展」開催 ・キッチンスタジオ「M98eat」で、食を通じた交流を行う「グローバルキッチン」を開催（安田女子大学との協働）
		西国街道マンホールデザインプロジェクト	広島市内中心部の旧西国街道に設置するマンホールのデザイン制作。西国街道の調査・聞き取りを行い、「広島」をモチーフにしたマンホール蓋のデザインを制作。成果物を広島市水道局に提案。（視覚造形/参加学生27名）
		広島ピースプロジェクト	NHK 広島放送局と長崎放送局で2007年から毎年放送する特集番組「ヒバクシャからの手紙」をNHK 広島放送局と協働し、アニメーション映像を学生主体で制作。8月7日、8月30日、9月8日にNHK 広島、NHK 総合、NHK WORLD JAPANで放送。（映像メディア造形/参加学生6名）
中山間エリア	北広島町 大朝	筏津プロジェクト	北広島町大朝の筏津芸術村において、2017年に開催した展覧会「筏津曼荼羅芸術祭」の継続事業として、地元の木材を使い神楽面をモチーフとしたトーテムポール作品（高さ4m、直径60cm、クリ材）を制作し、芸術村入り口に設置。彫刻専攻の学生による制作補助、設置補助を通して、大型野外彫刻作品設置の実践的授業を行う。（彫刻専攻/参加学生6名） グローバルキッチンの実施：筏津プロジェクトと安田女子大学のコラボレーションイベントとして、9月2日に筏津芸術村で行われた地域の運動会に合わせて、安田女子大学管理栄養学科の学生による地域の高齢者へ向けた健康料理イベント「筏津クッキング」を開催。
	安芸太田町 加計	安芸太田染織プロジェクト	安芸太田の歴史や伝統をテーマにした染織作品を制作。完成した作品を安芸太田町のアートスペース「mm project」で展示。（染織造形/参加学生7名）

【アートによる企業や地域とのコラボレーション】

COC+事業協働機関の企業や自治体等の要請に応じて、芸術学部の学生、卒業生、教員の有志が課外活動として、以下の5件のコラボレーション事業（観光事業や地域振興に資するアート活動）を実施した。

企業コラボ1	(株)ホテルグランヴィア広島との協働プロジェクト。アートコンペ形式で学生を選出し、ホテル1Fロビー内の壁面に壁画アート作品を制作
企業コラボ2	2017年に油絵専攻が実施した「宮島双六プロジェクト」の木版画作品を、(株)ロイヤルコーポレーション社内に展示。
企業コラボ3	(株)ホテルグランヴィア広島との協働プロジェクト第2弾。アートコンペ形式で学生を選出し、ホテルが広島駅新幹線口にオープンしたカレー店舗「eki spices」内壁面に、壁画アートを制作。
地域コラボ1	広島ニューライオンズクラブの依頼による広島市安佐動物公園正門前モニュメント制作・設置。卒業生のアーティストと学生との協働制作。動物園のサイをモチーフにした等身大作品を銅板で制作。
地域コラボ2	安佐南区沼田合同庁舎の新設にあたり、庁舎のロゴデザインを制作。12月23日開催の庁舎式典に合わせて庁舎内にサインロゴを設置。



(2) 活動拠点の運営

【基町「M98」】 (※活動内容はアートプロジェクトに記載)

広島市中区役所からの受託研究をベースとして、高齢化などの地域課題に対して、教員、学生が地域住民と一緒に話し合いながら様々なプロジェクトを進めている。アートプロジェクトの一環としても行っている。「M98」を拠点としながら、平成28年度において、空き店舗をリノベーションした「M98〈make〉」と「M98〈eat〉」を、平成29年度は「M98〈join〉」を整備し、作品展示や交流スペースとして活用を進めた。

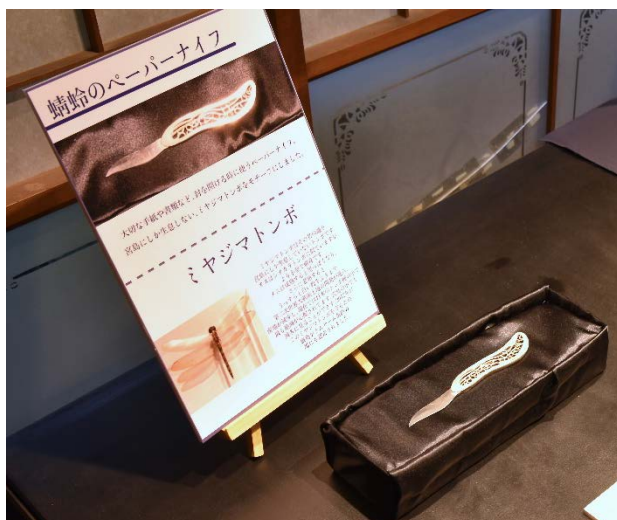
名称	「M98」
所在地	広島市中区基町 基町市営住宅内
設置時期	平成26年5月(平成29年度末までに3スペースを追加整備)
施設概要	基町住宅地区の商店街の空き店舗を学生の参加により、以下の通りリノベーションを行い、活用している。 平成26年度 「M98」(交流オフィス) 平成28年度 「M98〈make〉」(工房)、 「M98〈eat〉」(キッチン) 平成29年度 「M98〈join〉」(展示・交流)
内容	基町プロジェクトのスタッフ運営スペース。地域住民との会合。工房やキッチン、展示スペースを活用した、地域の活性化や交流活動。COC+参加校との協働事業の展開。



【サテライトハウス宮島】

本学とCOC+参加校の教職員・学生が宮島において教育研究の場とするため、平成28年10月に開設した広島市立大学COC+宮島教育研究施設（通称：サテライトハウス宮島）について、以下の通り運用・活用を行った。

名称	広島市立大学COC+宮島教育研究施設 (通称:サテライトハウス宮島)
所在地	廿日市市宮島町 672 番地 旧「因幡邸」
開設期間	平成28年10月1日から平成32年3月31日まで(予定) 運用開始:平成29年6月
施設概要	宮島における貴重な町家のひとつ。木造切妻造り(一部2階建て)の京都型町家建築で通り土間、坪庭を有す。
内容	宮島をテーマにした作品制作や展示、講座・セミナーの開催、フィールドワークの拠点としての活用。 (利用者:本学及びCOC+参加校の教職員・学生) 主な利用状況 芸術展示、芸術学部の現地演習、 市民向け講座(広島工業大学土曜講座)、 観光に関する学生の研究・活動発表会現地視察など



(3) 特色研究、社会連携プロジェクト等の実施

学内の競争的研究資金として設けている特色研究（特定研究を名称変更）及び社会連携プロジェクトに、COC+枠を設定し学内公募を行った。次の8つの研究テーマを採択し、研究を行っている。

また、これらのプロジェクトとは別にCOC+協働機関と連携して、次の2つの研究テーマを実施した。

区分	研究テーマ
特色研究費 COC+関連	季節イベントに関する旅行ブログの自動検出
	基町高層アパートにおけるメタボリズム建築とコミュニティの文化社会学的検証
社会連携 プロジェクト費 COC+関連	しまなみ観光サイクリストの行動情報収集プロジェクト
	柳井プロジェクト
	瀬戸内の魅力発信プロジェクト・バーチャルリアリティー編
	広島文化財(美術)を学ぶ教育プロジェクト-三原市・佛通寺所蔵「雲谷等顔筆襖絵」を教材として
	地域資源の撮影を通じた写真映像コンテンツ編集・発信能力の開発
	尾道市立大学と連携したアーティストによる空き家再生事業
(その他) COC+協働機関 との連携研究	広島市における観光消費の経済効果と地域経済における意義
	テキスト解析による竹原市の観光イメージの分析

(4) 参加校による協働研究事業の実施

COC+参加校が協働で(または単独で)、地域志向の教育研究プログラムを次の通り実施した。

学校名	事業名(テーマ)
広島大学	コンテンツツーリズムを活用した地域活性化～呉市を中心に～
尾道市立大学	アートプロジェクトの実施
広島経済大学	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業 (学生による観光資源等の再発見と発信)

広島工業大学	宮島・土曜講座
広島国際大学	中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト
広島修道大学	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業 もとまちカフェ
安田女子大学	「グローバルキッチンプロジェクト」への参画
広島商船高等専門学校	高齢者健康調査(企画名:お達者自慢)

(5) 大学連携による学生の観光研究・活動発表会の開催

学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図るため、COC+の参加6大学と比治山大学(協力校)が合同して、COC+の協働研究事業として、平成29年度に続いて実施した。開催は平成30年の12月8日と9日の2日間、会場は、廿日市市の広島経済大学の宮島セミナーハウス成風館。参加した学生は64名、教員は21名。

発表されたテーマは12。観光についての学際的な発表内容について、前回にも増してプレゼンテーションスキルも向上し、活発な意見交換が行われた。

観光に関する研究・活動発表会【プログラム】

- 【1日目】①学生の研究・活動発表(7大学・12テーマ)
②広島の食資源勉強会兼交流会
(広島市立大学 國本善平 特任教授) 一宿泊—
- 【2日目】現地講義
① 宮島の景観保全—これまでとこれから
(広島市立大学 佐藤俊雄 特任教授)
② 宮島の「町家通り」の町家と町並みの空間特性、
③ 及びその活用・観光資源化
(広島工業大学 森保洋之 名誉教授)
現地視察

広島大学
広島経済大学
広島工業大学
広島修道大学
安田女子大学
比治山大学(協力校)
広島市立大学



【大学連携による学生の観光研究・活動発表会の内容】

発表テーマ（大学/参加学生数/指導教員）

【宮島の観光】

- ① 宮島の魅力を多角的に発信するための取り組み（広島経済大学/8名/濱田 敏彦教授）
- ② 宮島・町家通り活性化大作戦（広島工業大学/4名/伊藤 雅教授）
- ③ 宮島の新お土産提案展示「これも!?宮島展」（広島市立大学/6名/南 昌伸教授、永見文人教授）
- ④ 宮島における歩行者交通量の平準化方策に関する検討（広島工業大学/2名/伊藤 雅教授）

【広域・周遊観光】

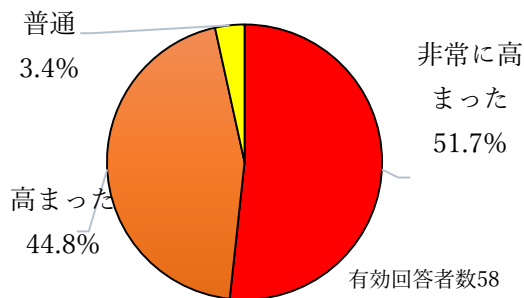
- ⑤ 大学生による広島市内戦跡ガイド（広島経済大学/2名/竹林 栄治准教授）
- ⑥ きんさい呉線～市内だけで満足しちゃいけないじゃろ！（安田女子大学/10名/畑井淳一教授）
- ⑦ 『扇ノ山を源とする殿ダムと浦富海岸、「旬」体験ツアー～人と水とが創造する、遊・食・景 その見聞はきっと永遠(とは)になる！～』の企画考案（比治山大学/5名/山田知子教授）
- ⑧ 広島のエえとこルートマップ!!!（広島修道大学/15名/富川久美子教授）

【地域資源と観光】

- ⑨ 離島の「非日常性」の発見と活用（広島市立大学/4名/佐藤俊雄特任教授）
- ⑩ 大学生まちづくりコンテスト2018へ向けての取り組みと成果報告（比治山大学/2名/臺 純子教授）
- ⑪ サステイナブルツーリズム（安田女子大学/3名/ジャーマンウォルシュ・ジョイ講師）
- ⑫ 「負の記憶に向き合うために観光ができること～広島・福島・呉から考える～」（広島大学/3名/張慶在講師、フंक・カロリン教授）

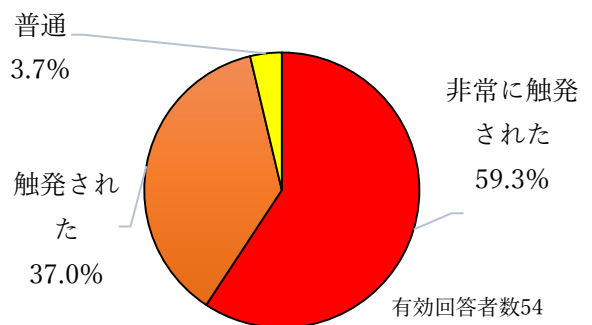


■学生の広島地域の観光への
関心の高まり



学生の観光研究・活動発表会（H30.12実施）

■学習・研究上の刺激の度合い



学生の観光研究・活動発表会（H30.12実施）

(6) サテライト講座の開催

事業協働地域の若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが課題となっている。その対策の一つとして、高校生の地元大学への関心を高めるための事業を行うことで、地域内への進学の道を示し、ひいては地域内での就職につながるものとして企画し、実施した。

【実施内容】

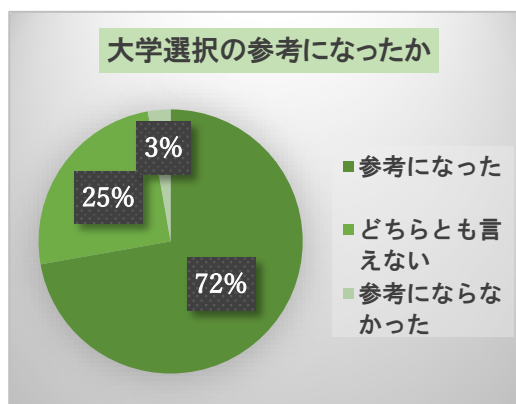
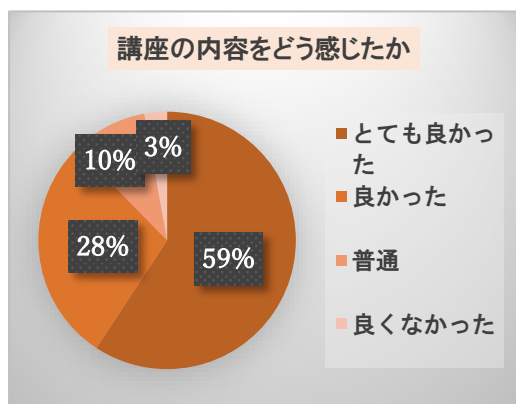
対象：柳井広域圏(1市4町)に居住または通学の高校生(高校数7) 保護者、一般

参加者延べ数 53人

会場：柳井市文化福祉会館

	第1回(8月26日(日))	第2回(9月17日(祝))	第3回(11月18日(日))
担当教員	芸術学部 鍛澤教授	情報科学部 満上准教授	国際学部 目黒講師
テーマ	私のアートとアートディレクション、そのコンセプト	歩き方から分かること 個人認証から心身状態の推定まで	アフリカ地域研究入門 フィールドワークによりマサイの暮らしを考える
参加者数	20人(高校生15、教員1、一般4)	19人(高校生3、保護者5、一般11)	14人(高校生5、保護者2、一般7)
参加高校	柳井、柳井商工、熊毛南、大島商船、光	高水、田布施農工、大島商船	柳井学園、野田学園、高水

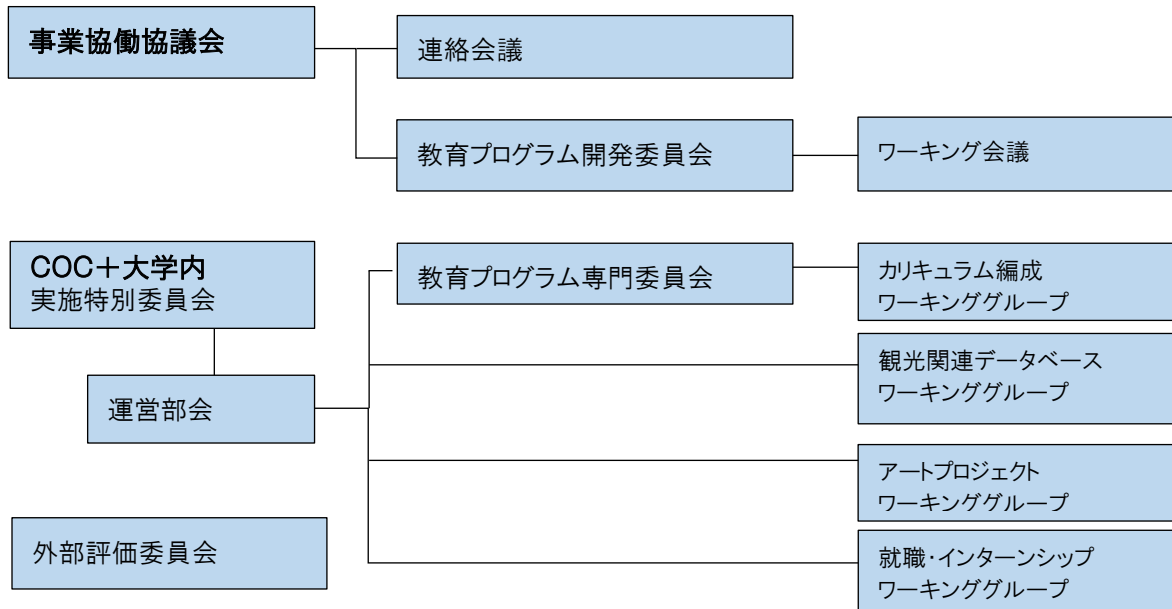
関連：講座の前に参加大学の案内パンフレットを配布して紹介を行い、進学を促した。



5 事業運営

(1) 推進組織の運営

引き続き以下の体制で事業を運営した。



(2) 広報

【ニュースレターの発行】

区分	発行時期	内容
第9号	平成30年12月	地域課題演習、学生の観光研究・活動、フォーラム報告など
第10号	平成31年3月予定	地域貢献特定プログラムの成果

(3) 事業評価

区分	時期	評価内容
文部科学省の COC+中間評価	平成30年2月	計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
外部評価委員会の 平成29年度事業評価	平成30年7月	計画を上回った実績を挙げている。
事業協働機関による 平成29年度事業の満足度調査	平成30年8月	満足・やや満足 28機関 100% 満足できない 0 機関 0% 無回答 21機関 (回答率64%)